

1 背景と現状

- JR刈谷駅は一日約7万人程度（コロナ禍以前は約10万人）が利用。
- 市の来訪者は、ビジネス・飲食・通院など**特定の目的を持つ来訪者が多い**と考えられる。
- 市では、**ホームページやSNSを通じてイベント・観光情報・市政情報等を発信**しているが、自ら取りにくい以外の情報は埋もれやすい。

2 解決したい課題

- 来訪者は目的達成後はそのまま帰路についてしまい、**市のコンテンツや魅力を偶然知り得る機会がない**。
- 刈谷駅南北連絡通路は毎日大勢が利用するものの、通路上や壁面での効果的なPRが少ない。
- 駅は移動や集合用途の利用に終始し、**若者の話題となったりバズるような事象が発生しない**。

3 実現したい未来

- 1年後：来訪者（特に若者）への駅での情報発信技術のトライアル
- 2年後：実証結果を踏まえて発信内容・手法を再検討するとともに、（仮称）地域交流拠点施設と連携した情報発信を実施
- 5年後：蓄積データを活用した駅周辺での効果的なサービス提供による市民サービス向上とにぎわいの創出

4 想定する解決策や技術

- 特徴的な**AIアバターを搭載したデジタルサイネージ**を刈谷駅周辺に設置し、**利用者属性データの取得**と情報提供を重ねていく
- 登録したパーソナルデータに基づきアプリでのプッシュ通知による訴求
- 「メタ観光」マップにより**市の多様な魅力を複数レイヤーで可視化**
（例）本社ビル・ギャラリー、史跡・ゆかりの地、公園、名所etc